

# 経済・金融 フラッシュ

## 3月マネー統計：

震災の影響で現金・預金にますます資金が集中

経済調査部門 シニアエコノミスト 上野 剛志

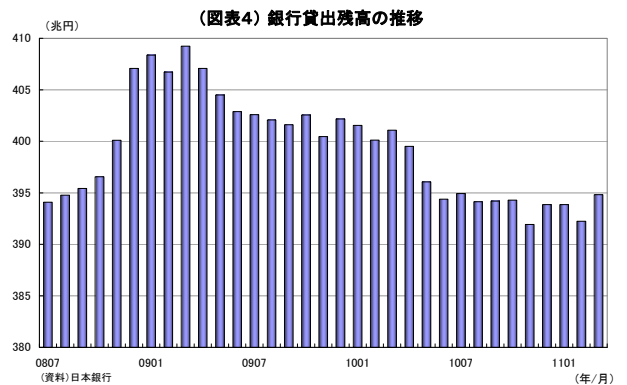
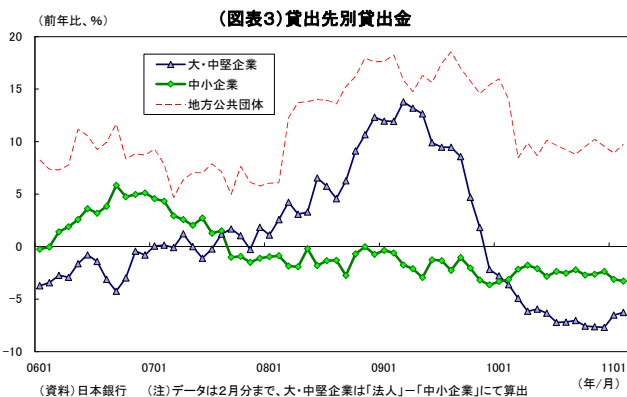
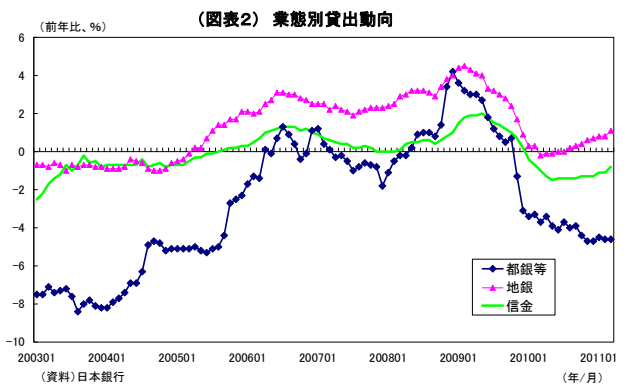
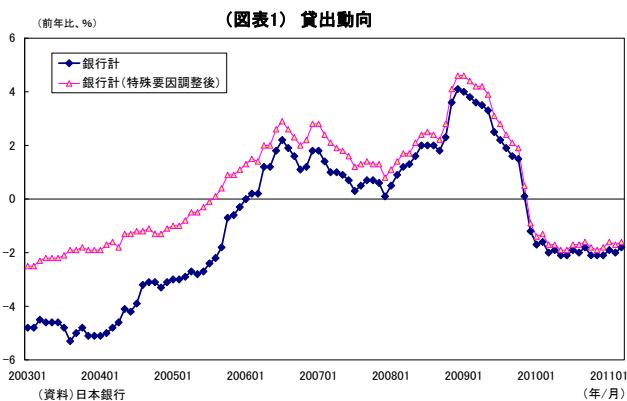
TEL:03-3512-1870 E-mail: tueno@nli-research.co.jp

### 1. 貸出動向： 銀行貸出残高は対前年▲1.8%

日銀が発表した貸出・資金吸収動向等によると、3月の銀行総貸出（平残）の前年比伸び率は▲1.8%と前月の同▲2.0%からマイナス幅が縮小したものの、16ヶ月連続の前年割れになった。震災の影響で、緊急融資や一部企業の資金確保の動きもあったとみられ、マイナス幅は6ヵ月ぶりの小幅となったが、貸出全体の減少トレンドを変えるには至っていない。

内訳では、都銀が前月と変わらず前年比▲4.6%減、地銀がやや上昇し同1.1%増（前月は同0.8%増）と、従来からの都銀マイナス・地銀プラスの構造に変化はない。（図表1～4）。

今後は復興に伴う資金需要の高まりが期待される一方で、企業マインド悪化に伴う設備資金需要低迷も懸念され、この強弱要因のバランスが銀行貸出のトレンドを左右する。

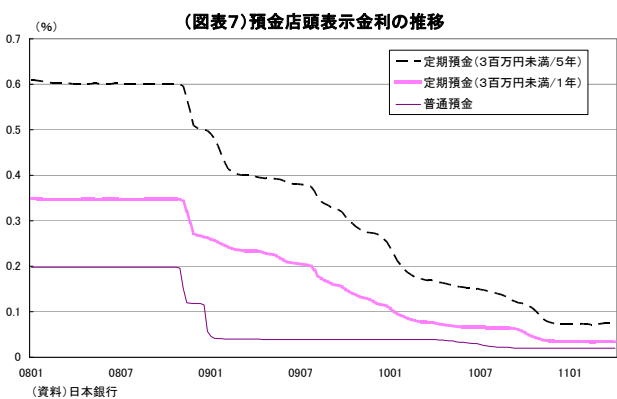
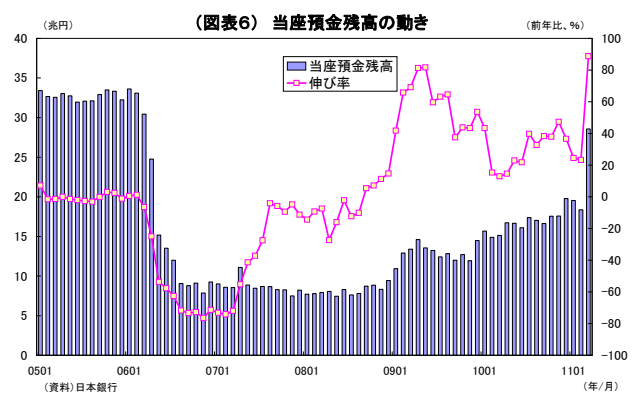
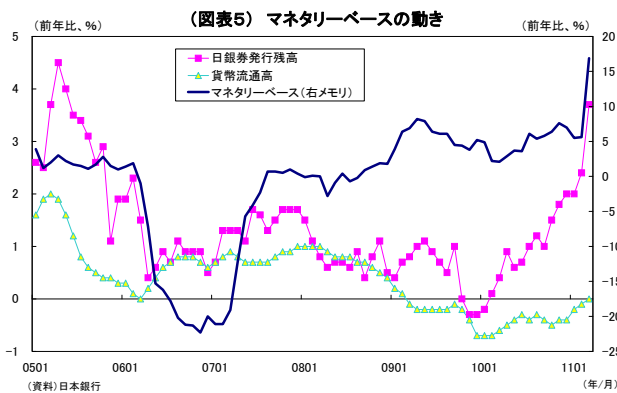


## 2. マネタリーベース：震災の影響で資金供給量は5年2ヶ月ぶりの高水準に

日銀による資金供給量(日銀当座預金+市中のお金)を示すマネタリーベースは3月に急増、伸び率は前年同月比16.9%と7年5ヶ月ぶり、月平均残高も112.7兆円と5年2ヶ月ぶりの高い水準を記録した。

従来、日銀は景気の下支えに向け「包括緩和」などによって潤沢な資金供給を継続、マネタリーベースは高水準で推移してきたが、今回の地震を受けて市場の動揺を抑えるために資金供給を加速。このため日銀当座預金が前月比で10兆円超増加し、対前年でも88.7%増と急伸した。また、日銀券発行残高も対前年3.7%増と5年10ヶ月ぶりの高い伸びを示した。地震の影響で預金の引き出しが増え、銀行が現金を多めに確保した模様だ(図表5~8)。

日銀は引き続き潤沢な資金供給スタンスを維持していくとみられ、今後ともマネタリーベースは高い水準で推移していくと思われる。



(図表8) 資産買入等基金の状況 (億円)

	買入限度額(注1)	3月末残高	進捗率
資産買入	100,000	29,309	29%
国債(注2)	20,000	9,007	45%
国庫短期証券	30,000	13,499	45%
CP等	20,000	2,743	14%
社債等	20,000	2,032	10%
ETF	9,000	1,851	21%
REIT	1,000	177	18%
新型オペ	300,000	288,292	96%
合計	400,000	317,603	79%

(注1)買入限度額は2012年6月末までの概数

(3月決定の基金増額を反映済み)

(注2)従来から行われている国債買入月額1.8兆円分は含まず

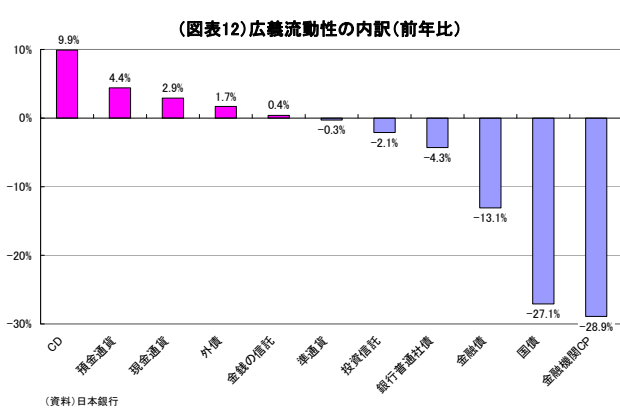
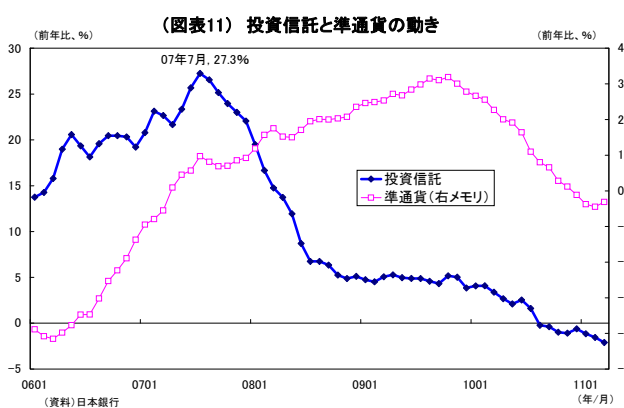
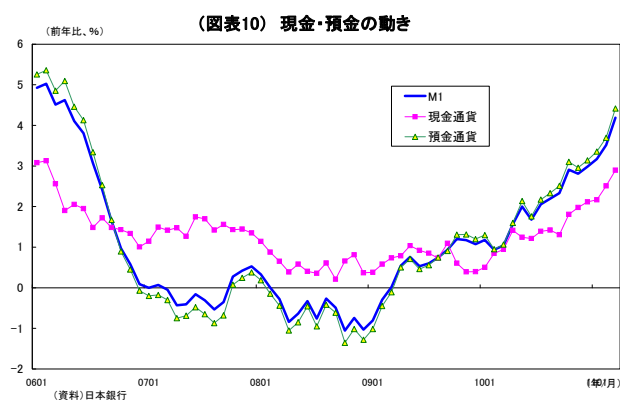
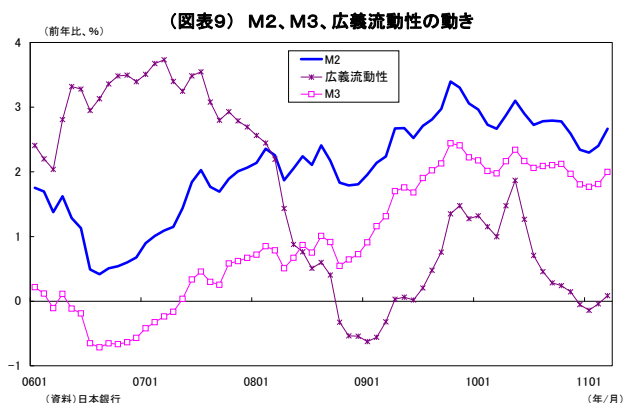
## 3. マネーストック：流動性預金残高が過去最高に

通貨供給量の代表的指標である3月のM2(現金、国内銀行などの預金)平均残高は前年同月比2.7%増(前月は2.4%増)、M3(M2にゆうちょ銀など全預金取扱金融機関の預貯金を含む)は同2.0%増(前月は1.8%増)とそれぞれ増加した。一方、M3に投信や外債などを含めた広義流動性は同0.1%(前月は同0.0%)で前年比ほぼ横ばいとなった(図表11)。

広義流動性の内訳を見ると、現金通貨が対前年2.9%、預金通貨(当座・普通預金等)が同4.4%とそれぞれ5年1ヶ月ぶり、4年10ヶ月ぶりの高い伸びを示した。残高でも、預金通貨が統計開始

以来の最高、現金通貨も需要が一年で最も高まる年末を除いた最高を記録した（図表9～12）。

前月までも現金や流動性預金への選好が高い状況であったが、震災の影響によってさらに「流動性の高い手元資金を確保しておきたい」という需要が発生したとみられる。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。